

## 教育講演 1

日時：2022年6月11日（土）8:30-10:00

### 【見逃し厳禁！救急疾患の tips & pitfalls】

<企画責任者> 林 寛之 （福井大学医学部附属病院総合診療部）

演 者 林 寛之 （福井大学医学部附属病院総合診療部）

#### <企画概要>

救急疾患の見逃しは古今東西非常に似通っており、よくあるコワイ疾患が非典型的な主訴で来院してくる。誰が診ても重症な場合の対応は比較的単純だが、歩いてくる患者の0.2~0.7%は実は重症であり、臨床最前線で戦うプライマリ・ケア医泣かせである。sickかnot sickかの臨床医の直感（感度66.2%）はそれほど当てにならない。この教育講演では救急疾患診断の落とし穴に迫る。非典型例で最も多い主訴は全身倦怠であるが、痛みや発熱が出現するはずなのにそれがない場合にこそ騙される。訴訟になりやすい疾患（急性心筋梗塞、クモ膜下出血、大動脈解離、感染症など）の非典型主訴のキーワードの拾い上げや、再現フィルムを作るような病歴聴取の重要性等について解説する。一方診断力は単に医学的知識を知っているからと言って伸びるものではない。豊かな創造性とコミュニケーションスキルも身に着ければ、臨床力が伸びること間違いなし。これであなたの毎日の臨床もビビらずに済むかも？この講演終了後に、非典型例を楽しみ待ってしまうという副作用がでるかもしれません（笑）。

6月11日(土)

教育講演2・教育講演3・教育講演4・教育講演7・教育講演8・教育講演12

6月12日(日)

教育講演16・教育講演17・教育講演22・教育講演26・教育講演27

<企画責任者> 近藤 猛 (名古屋大学医学部附属病院総合診療科)

<企画概要>

あなたの日常診療を拡張する、JPCA Education lecture Core Series(JPCX)です。豪華講師陣により、糖尿病、脂質異常症、高血圧、COPD、膝・肩・腰痛、敗血症、悪性腫瘍、誤嚥性肺炎、腎盂腎炎、心不全と外来・病棟の幅広いテーマを学ぶことができます。専攻医、指導医、実地医家とも日常診療に役立つ知識を習得し、明日からの診療をバージョンアップしませんか？。

**6月11日(土) 第9会場**

**8:30-9:20 教育講演2「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX みどころ解説」**

近藤 猛 (名古屋大学医学部附属病院総合診療科)

大浦 誠 (南砺市民病院)

吉田 伸 (医療法人博愛会 頤田病院)

2日にわたる教育講演コアシリーズの見所、どんな方に特にオススメかを解説します。どのレクチャーを見るか迷ったときに参考にして下さい。

### 9:30-10:20 教育講演3「JPCA 教育講演コアシリーズ -JPCX 外来1-糖尿病」

演 者 三澤 美和（大阪医科薬科大学病院 総合診療科）

セッションを通して、最近の糖尿病薬物療法を理解し次の日からの診療に生かせることを目指します。また多様化する注射剤について、プライマリ・ケアセッティングに合わせた治療の実際を学びます。医師以外の職種の方にも、医師の処方意図を理解いただくきっかけになればと思います。複雑なことはできなくていい、なるべくシンプルに、なるべく安全にやっていきましょう。患者心理にも少し触れ、明日から「やさしい糖尿病診療」ができることを目指します。

### 10:30-11:20 教育講演4「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 外来2—COPD」

演 者 南郷 栄秀（社会福祉法人聖母会聖母病院総合診療科）

COPDの診断、重症度判定、治療、マネジメントについて、呼吸器を専門にしないプライマリ・ケア医はエビデンスに基づいて診療現場でどのようにアクションを起こせばいいかをまとめてお話しします。

### 14:45-15:35 教育講演7「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 外来3-脂質異常症」

演 者 五十嵐 俊（横浜市立市民病院薬剤部）

矢吹 拓（栃木医療センター内科）

プライマリ・ケアの現場で非常によく遭遇する脂質異常症について、リスク層別化や治療適応などの基本的なアプローチや、エビデンスに基づいた薬物療法や非薬物療法などのマネジメントについてプライマリ・ケアの現場で必要な内容を分かりやすく解説します。また、高齢化社会を迎える中、Time to benefitを意識した”薬物療法の止め時”や多疾患併存時にどうアクションするかなどについても一緒に考えていきましょう！

**15:45-16:35 教育講演 8「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 病棟 1-悪性腫瘍」**

演 者 東 光久 (福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー)

オンコ・ジェネラリストは患者の人生の中でがんを位置づけ診療できる医師のことを指します。演者はすべての総合診療医にオンコ・ジェネラリストを目指してほしいと考えています。そのためには、がん診療の知識・経験をアップデートしていく必要があります。そこで今回は、免疫チェックポイント阻害剤など、近年変化がめまぐるしい悪性腫瘍の診療について総合診療医が押さえておくポイントを、基本と最近のアップデートを中心に解説します。

**16:45-17:35 教育講演 12「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 病棟 2-心不全」**

演 者 川上 将司 (飯塚病院循環器内科)

総合診療医が病院で出会うことに多い、心不全に対して最近のアップデートも交えながら総合診療医がおさえておくべきポイントをお話します。

**6月12日(日) 第9会場**

**8:15-9:05 教育講演 16「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 病棟 3-敗血症」**

演 者 八重樫 牧人 (千葉西総合病院 内科)

日本の病院総合診療を牽引する八重樫先生から、最新のエビデンスを交えながらも、ジェネラリストの文脈に落とし込んだ実践に即したレクチャーを提供します。

**9:15-10:05 教育講演 17「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 病棟 4-腎盂腎炎」**

演 者 長野 広之 (京都大学大学院 医療経済学分野)

腎盂腎炎は臨床医が日常診療で考えない日はないと言っても過言ではない common な疾患です。救急外来や入院診療、そして在宅医療などで腎盂腎炎を発熱の鑑別に入れられないことはないと思います。尿が濁っていて熱があれば腎盂腎炎と簡単に捉えられることもあります。実は他の疾患で痛い目にあつたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。腎盂腎炎の診断、治療、その他マネジメントは発熱診療の基本でありながら、大変奥深く一朝一夕には身につけられるものではないと感じています。本企画ではそんな腎盂腎炎についていつもの診療を一步深められるポイントを扱っていきます。

## 10:15-11:05 教育講演 22 「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 外来 4-高血圧症」

演 者 廣岡 伸隆 (埼玉医科大学 総合診療内科)

小幡 篤 (みちのく総合診療医学センター)

プライマリ・ケア医が日常診療で扱う疾患の中でも頻度の高い高血圧について、正しく評価・診断することが重要である。そして、多くの選択肢から適切な薬物療法を選び、非薬物療法も併せて管理し、心血管疾患等の合併症を効果的に予防することは、我々が、医療を提供する際の目標である。近年、多くのエビデンスに基づくガイドラインも整備され高血圧管理のスタンダードも示されている。プライマリ・ケア医が、どのように高血圧患者へ効果的にアプローチできるかを一緒に考えていきたいと思います。

## 12:30-13:20 教育講演 26 「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 病棟 5-誤嚥性肺炎」

演 者 森川 暢 (市立奈良病院 総合診療科)

誤嚥性肺炎は近年、早期のリハビリテーションや早期経口摂取による予後が改善するというエビデンスが出ている。さらにフレイルや多疾患併存などの老年医学やプライマリ・ケアとのホットトピックとの関連も深い。また ACP や倫理的問題との関連も深く、高齢化社会において最も重要な疾患のひとつである。総合診療医である筆者が誤嚥性肺炎の最新のエビデンスに基づきながら、日々の診療に役立つ実践的な知識をレクチャーさせていただく。

## 13:30-14:20 教育講演 27 「JPCA 教育講演コアシリーズ - JPCX 外来 5-膝、肩、腰痛」

演 者 海透 優太 (JCHO 若狭高浜病院)

初期研修では自信がつかない領域 No. 1。外来を持ち始めた後期研修医がどの本見ればいいのかわからない主訴 No. 1。指導医が後輩に質問を振られて困る守備範囲 No. 1。

本レクチャーでは、膝・肩・腰の領域で、特に診療所セッティングで遭遇しやすい疾患について、初期・後期・指導医の熟達度別に目標を設定して、皆様の学びをサポート致します。

お近くに信頼の置ける整形外科医がおられる環境もあれば、海や山を越えないと整形外科医にたどり着けない環境など、皆様の環境も違います。ご自身の環境と目標に合わせて学びのレベルを自己調整していただきながら、楽しく整形疾患を学んでいきましょう。

## 教育講演 5

日時：2022年6月11日（土）14:45-16:15

### 【診断推論の教育】

<企画責任者> 生坂 政臣（千葉大学医学部附属病院総合診療科）

司会・演者 生坂 政臣（千葉大学医学部附属病院総合診療科）

演者 綿貫 聡（東京都立多摩総合医療センター

救急・総合診療センター/総合内科）

演者 志水 太郎（獨協医科大学総合診療医学

獨協医科大学病院総合診療科）

### <企画概要>

医学知識のひとつのピークと考えられる医師国家試験受験直後と診断能力のピークが一致しないことから分かるように、診断推論は知識とスキルの両者を必要とするが、この能力はケーススペシフィックとされ、領域が異なると同じ水準のパフォーマンスを発揮することはできない。しかしながら、確かに知識の個別性は自明であるものの、他領域に転移可能な診断推論スキルが存在するのであれば、知識の補足を前提に新しい領域での実践能力として昇華し得る。一般に転移可能なスキルとは、コミュニケーションや情報リテラシーなどの領域横断的な汎用性が明らかなスキルと、様々なプロフェッショナルな仕事の文脈で発揮されるスキルに分類されるが、今回は後者に相当する Semantic Qualifier や VINDICATE+P などの診断推論方略の転移成功症例と誤診事例からの学習、具体的には認知的剖検を経て得られる改善戦略をもとに、診断推論教育の在り方について考察する機会としたい。

## 教育講演 6

日時：2022年6月11日（土）14:45-16:15

### 【研究論文の優れた査読を知ってアクセプトされる研究論文を書く！】

<企画責任者> 竹村 洋典（和文誌編集委員会）

座 長 竹村 洋典（和文誌編集委員会）

座 長 石丸 裕康（天理よろづ相談所病院）

演 者 青木 拓也（東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター  
臨床疫学研究部）

演 者 松山 泰（自治医科大学医学教育センター）

演 者 新井香奈子（滋賀県立大学人間看護学科）

演 者 谷崎隆太郎（市立伊勢総合病院 内科）

### <企画概要>

誰でもいい研究論文を投稿してその論文が雑誌に掲載されたい。しかしそれがアクセプトされるか否かは、その研究や論文の良否のみで決まらない。いい研究論文を書くことだけに集中しているのでは不十分である。査読者の眼にかなう必要がある。査読者は何を考えて研究や論文を評価しているのか？この講演では、優れた査読者の着眼点を赤裸々に公開してもらいます。これであなたの論文もアクセプトような論文に近づきましょう！

## 教育講演 9

日時：2022年6月11日（土）16:30-18:00

### 【症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER (Vol. 4)】

<企画責任者> 多胡 雅毅（佐賀大学医学部附属病院総合診療部）

座 長 多胡 雅毅（佐賀大学医学部附属病院総合診療部）

司 会 鋪野 紀好（千葉大学医学部附属病院 総合診療科）

ディスカッサント 志水 太郎（獨協医科大学 総合診療医学）

ディスカッサント 佐々木陽典（東邦大学医療センター大森病院  
総合診療・急病センター）

ディスカッサント 和足 孝之（島根大学医学部附属病院 総合診療医センター）

ディスカッサント 高橋 宏瑞（順天堂大学医学部 総合診療科）

プレゼンター 鈴木 真紀（隠岐広域連立立隠岐病院 総合診療科）

プレゼンター 小沢 一世（総合病院国保旭中央病院）

### <企画概要>

日本病院総合診療医学会学術大会でシリーズ化している「症例検討から学ぶ診断推論戦略」が、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に登場します。総合診療医には、あらゆる症候・疾患に対する最新の医学知識に基づいた思考力と行動力が求められます。さらに、診断困難例では様々な戦略的思考を駆使して最適解を追求し、弾力性の高い医療を提供する必要があります。総合診療医が身につけるべき診断推論戦略を日々の臨床現場で実践できるスキルへと昇華するためには、症例検討は絶好の学びの場となります。本企画は、大学での診療・教育実践をベースとした診断推論戦略の経験に長けた JUGLER (Japan University General medicine Leadership and Education Roundtable: 日本大学総合診療リーダーシップ・教育円卓会議) が担当し、若手総合診療医による選りすぐりの2例の症例提示と、JUGLERメンバーがそのケースに対峙した時にどのように診断推論戦略を駆使して診断に迫るのかをリアルタイムディスカッション形式で進行します。エキスパート達の診断推論プロセスにおける着眼点と戦略を、そのスピード感とともに共有し、学びの場にして頂ければ幸いです。

**教育講演 10**

**日時：2022年6月11日（土）16:30-18:00**

**【プライマリ・ケアにおける押さえておきたい古典的文献】**

＜企画責任者＞ 岡田 唯男（鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山）

\*後日掲載\*



**JPCA 2022**  
YOKOHAMA

**第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会**  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association

**2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜**

## 教育講演 11

日時：2022年6月11日（土）16:30-18:00

### 【アカデミックライティング】

<企画責任者> 若林 秀隆（東京女子医科大学病院リハビリテーション科）

演 者 若林 秀隆（東京女子医科大学病院リハビリテーション科）

#### <企画概要>

研究論文が雑誌にアクセプトされるには、以下の3つが重要である。①研究テーマが重要で面白くて新規性がある（FINER）、②研究方法・研究デザインが適切である、③論文の書き方が適切である。アカデミックライティングだけ完璧でも、研究テーマと研究方法・研究デザインに大きな問題があれば当然、アクセプトされることは難しい。一方、研究現場では、論文の書き方に問題があるという理由でリジェクトされることもある。このような事態を避けるためには、論文執筆に十分習熟するまでは、論文の書き方は型どおりに行うことが望ましい。例えば、1つのパラグラフは1つのトピックだけとして、パラグラフの第1文にトピックセンテンスを配置するパラグラフライティングが、特に英語論文では重要である。イントロは、第1パラグラフで領域重要性とわかっていること、第2パラグラフでわかっていること、第3パラグラフで研究目的をトピックセンテンスとする。方法と結果は、CONSORT や STROBE など研究デザインごとのガイドライン通りに記載する。考察は、第1パラグラフで本研究でわかった重要な2つのこと、第2・3パラグラフでそれぞれわかったこと、第4パラグラフで一般化、第5パラグラフで限界、最終パラグラフでわかったことと意義づけ・展望をトピックセンテンスとすることが論文執筆の基本型である。

## 教育講演 13

日時：2022年6月12日（日）8:15-9:45

### 【患者中心性を掘り下げる一家庭医療学の柱に立ち返る実践と教育一】

<企画責任者> 加藤 光樹（社会医療法人 天神会 まどかファミリークリニック；  
北海道家庭医療学センター 学術研究支援センター）

司会・演者 加藤 光樹（社会医療法人 天神会 まどかファミリークリニック；  
北海道家庭医療学センター 学術研究支援センター）

演 者 宮地純一郎（医療法人 北海道家庭医療学センター 浅井東診療所）

演 者 金子 惇（横浜市立大学大学院データサイエンス研究科

ヘルスデータサイエンス専攻）

### <企画概要>

家庭医療・総合診療研修プログラムでは、患者中心の医療・ケアを学ぶことになっていますが、なぜ患者中心性は重要で、それはどのように診療や教育に現れるのでしょうか。現状、患者中心性とは何なのかについて医学校で学ぶ機会は乏しく、家庭医療の研修を開始しても Moira Stewart らの Patient-Centered Clinical Method について学ぶ以外、掘り下げて学ぶ機会はないのではないのでしょうか。しかし、患者中心性は家庭医療学を一つの専門分野として認識するために重要な概念であり、その実践にも教育にも深い理解が必要となります。本企画では演者に医療人類学や家庭医療学に造詣が深く、かつ実際に家庭医療の診療・教育・研究に携わっている家庭医を迎え、患者中心性という概念の背景にある考え方や理論を掘り下げつつ、それがいかにして日々の診療や教育に実装されるのか、みなさんと学びを深めていきたいと思えます。

## 教育講演 14

日時：2022年6月12日（日）8:15-9:45

### 【オンライン診療 診断学ことはじめ

—診察、コミュニケーション、対応を動画で解説—

<企画責任者> 吉田 伸（飯塚病院・穎田病院）

司会・演者 吉田 伸（飯塚病院・穎田病院）

座 長 久保田恵巳（くぼたこどもクリニック）

演 者 堀越 健（多摩ファミリークリニック）

演 者 黒木 春郎（外房こどもクリニック）

演 者 黒岩かをる（JaMITAC）

演 者 伊藤美奈子（JaMITAC）

### <企画概要>

本学会では2020年に設立されたICT診療委員会を中心に、プライマリ・ケアのためのオンライン診療ガイドを編集し、適切なオンライン診療の制度利用と患者適応について解説してきた。そして、オンラインならではの診察やコミュニケーションそして診察後の指導や対応について開発すべく、動画シリーズ『オンライン診療 診断学ことはじめ』を学会サイトで公表している。今回の教育講演では、日本のオンライン診療を取り巻く制度とプライマリ・ケアでの活用について最新の状況を総論としてお示ししたうえで、診断学ことはじめの制作メンバーであるオンライン診療の実践者、ならびに模擬患者の育成にあたっているJaMITACの方々に登壇を依頼し、大人や子供のかげ診療、高血圧、軽症COVID-19診療などこれまでの発表動画を振り返りながら、その診察とコミュニケーション、対応のポイントについて解説いただく。

## 教育講演 15

日時：2022年6月12日（日）8:15-9:45

### 【はじめての混合研究法】

<企画責任者> 井上真智子（浜松医科大学地域家庭医療学講座）

演 者 井上真智子（浜松医科大学地域家庭医療学講座）

### <企画概要>

皆さんが研究を始めようとするとき、浮かんでくる臨床疑問や研究設問は、量的研究、質的研究のどちらが適しているのでしょうか。時に、どちらかだけでは十分にその現象を理解できないのではないかと考えられる場合があります。混合研究法とは、量的なアプローチと質的なアプローチの両方を用いて、それらの相乗効果により、現象に対してより深い理解を得るために用いられる研究方法論です。プライマリ・ケアの現場には、数値で表される量的なデータと、文章やイメージで表される質的なデータが混在しています。私たちは普段から両方のデータを自然と扱っているといえます。そこで、量的なアプローチと質的なアプローチを適切な手法を用いて統合するという選択肢があれば、さらに研究が身近で面白く感じられる可能性があります。本講演では、プライマリ・ケアの事例を用いて、基本的な研究デザインや研究実践のポイントについてお話しします。

## 教育講演 18

日時：2022年6月12日（日）10:00-11:30

### 【「ワクチンアップデート 2022

～エビデンスに基づいたワクチン接種のために～】

<企画責任者> 鈴木 富雄（大阪医科薬科大学地域総合医療科学寄附講座）

座 長 鈴木 富雄（大阪医科薬科大学地域総合医療科学寄附講座）

演 者 中山久仁子（医療法人 メファ仁愛会

マイファミリークリニック蒲郡）

演 者 守屋 章成（名古屋検疫所中部空港検疫所支所）

演 者 宮田 智仁（津生協病院）

### <企画概要>

毎年の学術大会で行っている予防医療・健康増進委員会ワクチンチームの企画です。ワクチン接種に関するホットなトピックについて最新の知見を含めて提供します。例としては、新型コロナワクチン、HPV ワクチン、風疹ワクチン（第5期）、帯状疱疹などの個別のワクチンに関して、それに加えて、ワクチンをためらう人への対応やコミュニケーションなどの問題に関してもお話ししたいと思います。

## 教育講演 19

日時：2022年6月12日（日）10:00-11:30

### 【適々齋塾タイアップ教育企画（Dr. 上田の適々齋塾流！臨床の楽しみ方

～どんなときも症例は偉大なり！～】

<企画責任者> 中西 重清（中西内科）

司 会	小林 正宜	（葛西医院）
コーディネーター	上田 剛士	（洛和会丸太町病院）
講 師	徳田 安春	（群星沖縄臨床研修センター）
講 師	川島 篤志	（市立福知山市民病院総合内科）
講 師	志水 太郎	（獨協医科大学総合診療医学講座）

### <企画概要>

日常診療における症例ごとの振り返りは臨床スキルアップに有効だが、学習者の環境により成果にばらつきが生じることも多く、特にソロプラクティスでは独りよがりになりやすい。適々齋塾では学生・研修医から70歳超までの幅広い年齢層の塾生が同じ場に集い、熟練臨床医の思考パターンを症例ベースで追体験しながら振り返りを行う学びを続けており、学習の成果を同じレベルで共有できるアクティブ・ラーニング実践の場となっている。本学会構成員も幅広いバックグラウンドを持つという共通点があることから、本セッションのような適々齋塾セミナーの疑似体験は本学会会員にも大変有益だと考えられる。本セッションでは、まず適々齋塾講師から症例提示がなされ、ついでパネリストとのディスカッション、他の参加者のチャット意見等も加えながら振り返り、議論を進めたくらうでクリニカルパール、ピットフォール等を共有する。そののち上田剛士先生（コーディネーター）も加わりさらに学びを深める。以上を3症例で行う。全体を通じて、熟練臨床医の思考過程を共有しながら参加者全員で双方向性ディスカッションを行うことで、適々齋塾定期セミナーの雰囲気をも可能な限り再現する。

## 教育講演 20

日時：2022年6月12日（日）10:00-11:30

### 【逆算から考えるクリニック開業に向けてのシミュレーション】

<企画責任者> 松村 伸（まつむらファミリークリニック）

司会・演者 松村 伸（まつむらファミリークリニック）

#### <企画概要>

令和元年の厚生労働省賃金構造基本統計調査によると医者の平均年収は1,169万円、平均月収は91万円でした。月給制で残業をしないと仮定し、一般的な会社の月平均17日～21.5日勤務で時給計算すると約5,300円～6,700円が平均額になります。仮に年収1,200万円、1,800万円、年収2,400万円を同様に計算するとそれぞれ時給は5,814円～7,353円、8,721～11,030円、11,628円～14,706円です。実際には当直などを考えると、実質的な時給はこれより下がります。他方、アルバイトは時給1万円程度が多く、年収に換算すると1日8時間、月17日勤務で年収1,632万円、月21.5日勤務で2,064万円にもなります。勤務医を続けるよりもアルバイトをしている方がお得に見えますが、本当にそうでしょうか？開業という選択肢も加えてどのような条件を満たせば開業、勤務医、アルバイトが望ましいのかについて考えてもらうレクチャーです。

## 教育講演 2-1

日時：2022年6月12日（日）10:00-11:30

【小児在宅医療 -子どもは大人のミニチュアかもしれませんが、

まず始めてみませんか？】

<企画責任者> 宮崎 景（名古屋大学医学部地域医療教育学講座）

座 長 窪田 満（国立成育医療研究センター総合診療部）

座 長 宮崎 景（名古屋大学医学部地域医療教育学講座）

演 者 南條 浩輝（かがやきクリニック）

演 者 中村 知夫（国立成育医療研究センター 総合診療部 在宅診療科）

演 者 一ノ瀬英史（いちのせファミリークリニック）

### <企画概要>

小児医療、とくに新生児医療における先端医療の発展に伴い、医療ケア児の増加が著明であり、地域における小児在宅医療のニーズが年々高まっています。2021年6月に成立した医療的ケア児支援法により支援体制は推進されていますが、小児医療および移行期医療をになう在宅医の供給が需要に追いついていない状況は深刻です。総合診療専門医や、当学会が認定する新家庭医療専門医は、地域での小児診療をも担うべく、小児診療の研修を受け、外来診療を中心に地域での小児診療を担っていますが、小児在宅診療を担うことに二の足を踏んでいる方が多いのが現状です。

意図：

本セッションでは、もとは成人の在宅医でありながら、小児在宅診療を担っている先生や、小児在宅医療を担う小児科の先生方をお招きし、小児在宅医療に対する皆さんのハードルを下げることを目指して、講演、ケーススタディ、討論会を企画しました。

## 教育講演 23

日時：2022年6月12日（日）12:30-14:00

### 【新しい家庭医療専門研修の総括評価と形成評価】

<企画責任者> 大西 弘高（東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター  
医学教育国際協力学）

座 長 木村 琢磨（埼玉医科大学医学部総合診療内科）

司 会 矢吹 拓（独立行政法人国立病院機構栃木医療センター内科）

演 者 大西 弘高（東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター  
医学教育国際協力学）

### <企画概要>

2020年4月から開始された新しい家庭医療専門研修では、これまでの研修を比較して、コンピテンシーが一新され、総括評価におけるポートフォリオ評価の記載領域が変化すると共に、研修中に行われる形成評価についても新たな評価方法が含められるに至った。このような変化が生じている理由には、①WONCA（世界家庭医機構）の要求、②日本専門医機構が実施する総合診療専門研修との関連、③学習者評価における考え方の変化、④学習者評価の費用対効果の向上、が挙げられる。また、これらへの対応を行っている最中に、⑤コロナ禍への対応という新たな課題も生じている。専門医制度認定委員会は、これらの難題に立ち向かうべく、新たな方向性を打ち出し、可能な限り上記の課題への対応を行いつつ、評価を改善させていきたいと考えている。この教育講演では、総括評価、形成評価を改善させていくための考え方と具体策について、プログラム責任者、指導医、専攻医を対象にお伝えできればと考えている。

## 教育講演 24

日時：2022年6月12日（日）12:30-14:00

### 【災害時のメンタルヘルス・ケア】

- <企画責任者> 香田 将英（九州大学キャンパスライフ・健康支援センター健康科学部門）
- 発表演者 原田奈穂子（岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科  
看護科学分野）
- 発表演者 香田 将英（九州大学キャンパスライフ・健康支援センター健康科学部門）
- 発表演者 高橋 晶（筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学講座）
- 共同演者 齊藤 稔哲（気仙沼市本吉病院）
- 共同演者 吉本 尚（筑波大学健幸ライフスタイル開発研究センター）
- 共同演者 江川 孝（福岡大学薬学部臨床薬学）
- 共同演者 加古まゆみ（広島大学大学院医系科学研究科国際災害看護学）
- 共同演者 國永 直樹（倉敷中央病院総合診療科）
- 共同演者 鷺坂 彰吾（日本赤十字社医療センター救命救急センター・国内医療救護部）
- 共同演者 小幡 篤（みちのく総合診療医学センター/しばた協同クリニック）

### <企画概要>

米国家庭医療学会が提唱するように、子どもから高齢者まで、災害後にみられる身体的および精神的な健康問題は、プライマリ・ケア医の担当する領域である。本講演では、今回は特に精神的な健康問題に焦点を当て、最初に災害支援者として傷つけない原則（Do no harm）を始めとする行動規範、支援の質の保証、方策について紹介する。次に、災害後のストレス反応とその対応について、心理的応急処置（Psychological First Aid：PFA）や精神保健・心理社会的支援（Mental Health and Psychosocial Support：MHPSS）の視点から説明する。最後に、症状



第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association  
2022年6月11日(土)～12日(日) | パシフィコ横浜

および薬剤コントロールを含めた中長期的な関わりについて述べる予定である。災害時だけでなく平時でも活かすことのできる内容であり、ぜひ本講演の内容を普段の診療に役立てて欲しい。



**JPCA 2022**  
YOKOHAMA

**第13回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会**  
The 13th Annual Conference of Japan Primary Care Association

**2022年6月11日(土) ~12日(日) | パシフィコ横浜**

## 教育講演 25

日時：2022年6月12日（日）12:30-14:00

【コロナであってもなくても、日常診療に必要な感染対策

～ウィズコロナ&ポストコロナ時代～】

＜企画責任者＞ 鈴木 富雄（大阪医科薬科大学地域総合医療科学寄附講座）

座 長 中山久仁子（医療法人 メファ仁愛会 マイファミリークリニック蒲郡）

演 者 鈴木 富雄（大阪医科薬科大学地域総合医療科学寄附講座）

演 者 青木 眞

### ＜企画概要＞

結局のところ、マスクはいつ外せるのか？これからずっと飛沫の飛び方を気にしないといけ  
ないのか？ 忘年会や新年会は消滅せざるを得ないのか？居酒屋で私たちはどのようにふるまえば  
よいのか？ 世界は今大きく変わったが、今後もその変化をどの程度維持していく必要があるの  
か？ 何のエビデンスがあり、何のエビデンスはないのか？ 演者二人が対談形式で、皆の中  
にある疑問をその場に出し答えがあるものないものに関して 皆で共有していくセッション。

## 教育講演 28

日時：2022年6月12日（日）14:15-15:45

### 【Annual Evidence Update in Primary Care 2022

～明日から使える最新のエビデンスをあなたに～】

<企画責任者> 南郷 栄秀（社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科）

座長 南郷 栄秀（社会福祉法人聖母会 聖母病院 総合診療科）

演者 岡田 悟（東京北医療センター 総合診療科）

演者 矢吹 拓（国立病院機構 栃木医療センター内科）

演者 宮崎 景（三重大学医学部名張地域医療学講座）

演者 五十嵐 俊（横浜市立市民病院 感染管理室）

#### <企画概要>

医療の世界は日進月歩であり、日々新しいエビデンスが生み出されています。そのため、昨日まで正しいと信じられていたことが、実は誤りであったと判明することも珍しくはありません。古い知識のまま診療し続けることは、患者にとって不利益をもたらす可能性があります。とは言え、総合診療医の場合、幅広い領域にわたって診療を行う必要があることから、あらゆる知識を常に最新の状態にアップデートし続けるのは容易なことではありません。われわれ EBM プロジェクトチームは、第8回高松大会から毎年、プライマリ・ケア領域に関連の深いエビデンスのうち、直近1年間における最新のものを、4人の演者が次々とテンポよく、批判的吟味を交えて一挙に紹介しています。毎年恒例のセッションで、手軽に短時間で濃密な熱々ほやほやのエビデンスのシャワーを浴びて、忙しいあなたの明日からの診療の質をブラッシュアップしてみませんか。